鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴言

第67号　H23．11．30

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

12月の行事予定

12	月		
1	木	卒業考査（4日目） 中間考査（3日目）	
2	金	1・2年クラスマッチ	
3	㊏	悠学講座⑧	
4	㊐		
5	月	全校朝会	
6	火	スクールカウンセリング	
7	水		
8	木		
9	金	ダンス発表会　学校安全の日	通学マナー指導
10	㊏		通学マナー指導
11	㊐		通学マナー指導
12	月	学年朝会	通学マナー指導
13	火	スクールカウンセリング	通学マナー指導
14	水		通学マナー指導
15	木		通学マナー指導
16	金		通学マナー指導
17	㊏	悠学講座⑨　1年料理講習会	
18	㊐		
19	月	全校朝会 第6回職員会議	
20	火	スクールカウンセリング	
21	水		
22	木	大掃除	
23	㊎	天皇誕生日	
24	㊏		
25	㊐		
26	月	冬季悠学講座	冬季休業日
27	火	冬季悠学講座	冬季休業日
28	水	冬季悠学講座 実力考査時間割発表	冬季休業日
29	木	3年センタープレ	冬季休業日
30	金	3年センタープレ	冬季休業日
31	㊏		冬季休業日

姿勢

保健課主任　上村 早百合

出勤してからの私の一日は、「鶴言」をめくることから始まる。「鶴言」とは、今から5年程前、先生方から寄せられた生徒を励ます元気の出る31の言葉を綴った日めくりカレンダーである。当時の先生方の熱い思いの込められた言葉が、励ましたり、気持ちを奮い立たせたりしてくれる。その中で、ひときわ印象に残る言葉がある。

「実力のある人は姿勢からして端正である」

将棋の谷川浩司の言葉である。「心は形に現れる。人間はトータルな存在であり、心・技・体が整って初めて実力が発揮できる。」と添えられている。

辞書であらためて調べてみると、姿勢とは、からだつき、すがた、物事に対するからだの構えとあり、端正とは、きちんとしていること・さまとある。つまり、「姿勢が端正である」ということは、「物事に対するからだの構えがきちんとしている」ということである。

さらに、「姿勢」という言葉は、「すがた」と「いきおい」という字から成り立っている。私なりの解釈であるが、自分が成すべき物事にしっかりと心が向かっていれば、つまり勢いがあれば自ずとその姿は整い、逆に迷いや他の物事に心を奪われ、勢いがなければその姿は崩れてくる。姿勢とは、物事に対する心の有り様であり、それが姿形やからだの構えとなって現れるのだと思う。

人を外見で判断してはいけないのは言うまでもない。確かに、外見だけで人格や力を判断することはできないし、接してみてはじめてわかることもある。しかし、人と人とが相対したとき、はじめに目に映るのは、姿勢や表情である。そしてその姿勢や表情に心の有り様が現れるとすれば、姿勢や表情を常に意識する態度は、自らの心の成長と繋がっているはずである。あるべき方向に心が向き、日々邁進していれば、やがて力が蓄えられ自ずと姿は整ってくるだろう。心や力が伴っていなければ、どこかにバランスの悪さが生じるだろう。

「端正」という言葉にはどこか落ち着いた響きがある。ギラギラと熱くほとばしる力を超越した、むしろ穏やかで静けささえ感じられる。それでいて隙がなく、無駄がない。堂々とした揺るぎない力、強い信念が感じられる。

私は8歳から剣道を始め、以来、30年程の競技生活を送ってきた。「鶴言」で谷川浩司の言葉を最初に見たとき、剣道を通じて経験し、学んだことが重なった。私が小学生の頃、御指導をいただいた先生は、女子で前人未踏の全日本選手権3連覇を果たされた方で、その偉業が剣道史に刻まれる実力者であった。稽古着、袴に防具を身につけた先生の姿は凛々しく、端正で、あこがれの存在であった。時に厳しく、時に温かく指導していただいた先生の教えは、その後の私の競技生活ばかりでなく人生においても大きな支えとなっている。

張り詰めた空気と緊張が極限に達した中で対戦相手と相対するとき何を思うのか。相手の表情、身なり、立ち居振る舞い、その姿勢に一分の隙も見いだせないとき、畏敬の念を感じることだろう。それは相手の内側から滲み出るものであり、これまでに培い、積み重ねてきた確かな力、まさに実力である。その人のこれまでの努力や乗り越えてきた困難や苦労など様々なものが一つの整った形となり、姿となって現れる。そして、力となって発揮される。

「実力のある人は姿勢からして端正である」

三年生を激励する会

10月26日（水）の午後、宝山ホールで三年生を激励する会（三激会）が開かれた。三激会は、大学入試に向けて熱心に励んでいる3年生のために、全校生徒で芸術を鑑賞する機会を設け、1・2年生からメッセージカードや歌を贈って応援する行事である。

今年度は、アクシス・チェンバーオーケストラによるコンサートを鑑賞した。団員の中には本校を卒業後、世界へ羽ばたき活躍されている方もいて、各楽器紹介中のソロでは、ドラムによる、本校をイメージした曲の披露や、本校生へのメッセージもあった。3年生にとっても、勝負の冬に備えて気合いを充実させるよい機会になったことと思う。

以下に、3年生代表として当日話をしてくれた33R内野すみれさんからのメッセージと決意表明を紹介する。

＊　＊

先日は、素晴らしい三激会をありがとうございました。とりとめのない挨拶になってしまったので、1・2年生の皆さんに伝えたいことを改めてここに書き記したいと思います。

●素直な心ですべての人の話を受け止める…自分を変えるきっかけは身の回りに山ほどあります。部活も勉強も、早く気づけた人の勝ちだと思います。

●メモをとる習慣をつける…誰かの話に感動しても、数日経てば忘れます。気づきとつながることですが、常にメモ帳を携帯して気に入った言葉などを書きためてください。必ず財産になります。メモなんてガリ勉みたいで恥ずかしい、などという考えは捨てて、ぜひ「メモ文化」を広めてほしいと思います。全校朝会には必須です。

●自分で考え自分の道を貫く…前と矛盾するようですが、人の話を鵜呑みにするだけではだめです。人に感化されすぎたことが私自身の反省です。本当に考えて自分が正しいと信じたことを貫けば、おのずと本物に近づくと思います。中途半端はゼロと同じなので、何事もやり抜いてほしいです。

他にも伝えたいことは山ほどありますが、『三激会のお礼にかえて』に詰まっているので、そちらを読んでください。

さて、三年生の皆さん。センター試験、二次試験が日々迫ってきますが、前にも話したとおり、私は大好きな仲間と過ごせる一瞬一瞬を大切にしたいと思っています。部活動生は分かると思いますが、あんなに苦しかった練習が、引退後は楽しかった思い出になり、恋しささえ感じる、受験勉強もそうだと思います。私達はおそらく、後の自分から見れば「あっという間の青春時代」の「あっ」を過ごしているわけで、この瞬間を（苦しくても）いかに楽しめるかが大事なのではないかと私は考えています。全員で、positive thinkingで戦える受験にしたい、と思います。

最後になりましたが、後輩の皆さんも、三年生も、本当に大好きです。先生方も本当に尊敬しています。こんなに素晴らしい人達に出会えたことに感謝しながら、鶴丸の名に恥じぬよう、残りの期間精一杯頑張っていこうと思います。

生徒会新執行部発足

神宮司直樹君率いる平成23年度前期生徒会執行部から後期生徒会に仕事が引き継がれた。新役員は次の通り。（紙面の都合により、新会長・副会長のみ紹介する。）

会　長　山口　舞（28R）
副会長　福原幸之将（21R）
副会長　久松　彩音（15R）

桜島ロードレース大会

11月11日（金）、桜島溶岩道路で第59回桜島ロードレース大会が行われた。当日朝は、あいにくの小雨模様。それでも、桜島フェリーを利用して総合体育館に集合した生徒たちは、日頃の練習の成果を発揮してベストの結果を出そうと、それぞれが意気込んでいた。

男子は周回コースを2周して10km、女子は1周の5kmを走り、それぞれが自身の限界に挑戦した。走り続ける中で胸の中に去来した様々な思いを忘れず、今後の人生の困難にも積極的に挑戦してほしい。

上位入賞者は、次の通り。

2年生男子
1位　新保　友啓
2位　池田　友哉
3位　西　航一郎

2年生女子
1位　中別府里緒
2位　橋口真梨香
3位　瀬戸口舞嘉

1年生男子
1位　上別府颯一郎
2位　川畑諄
3位　富原健太

1年生女子
1位　橋元彩
2位　黒木咲花
3位　小田代美香

文化講演会

11月1日（火）、神戸大学教授であり、経済経営研究所所長の下村研一氏をお招きして、「贈る言葉」という演題で文化講演会が開かれた。

文化講演会とは、例年、卒業後三十年経った先輩方から在校生への贈り物として実施されているものである。下村先生は、「大学生活」「留学生活」「研究生活」について、今までのご自身の経験を語ってくださった。その中で、物事に興味を持つこと、深く突き詰めて考え、物事を正しく捉えることの大切さを教えてくださった。なかでも、「現在のようなネット社会では、言葉が残る。だからこそ、日本語を正しく使う力が必要。日本語を大事に生きてもらいたい。言葉を使って人をもてなすことのできる人であってほしい」と力強く語ってくださった。

生徒たちが、先輩方の期待に応えるべく、「夢」の実現に向けて、気持ちを新たに日々を過ごしていくことを期待したい。